

- 1 派遣期日 平成 22 年 10 月 8 日 (金)
- 2 研修先 学校名 東京都港区立赤坂中学校
所在地 東京都港区赤坂 9-2-3
<http://www2.rosenet.ne.jp/~akasaka-j/>

- 3 研修内容
北原延晃教諭の授業見学

(1) 1 年生の授業 (現在進行形の導入)

- 英語の歌 "Ob-La-Di, Ob-La-Da"
 - ・字幕のある映像を流しながら一緒に歌う。
 - ・一時停止し、発音とリズムのチェックを行う。
- ウォームアップ
 - ・英語でヒントを出しながら月名を当てる対戦ゲーム
 - ・最初は月名リストを指で指し、後半は発音する
- 新文型の導入

Miki _____ a student.
I _____ breakfast every morning. (疑問文を確認)
Miki _____ breakfast every morning. (疑問文を確認)

Miki is eating breakfast now. [dictation させてから板書]

- ・ be 動詞、一般動詞の用法を振り返る。
- ・新文型の導入に際しては ALT との対話の中で提示する。
- ・時制の確認など、必要なことを説明する。
- ・教師のジェスチャーを生徒に英語で言わせる。
- ・言った英語をノートに書かせてチェック。
- ・書く際の ing の付け方のルールを説明する。
- ・現在進行形を用いたコミュニケーション活動

(2) 3 年生の授業 (新出語彙と教科書の内容理解・音読)

- ウォームアップ
 - ・ペアで単語の問題を出し合う。
- 英語の歌 "If We Hold on Together"
 - ・歌詞の確認 (韻を踏んでいる箇所が空欄になっている)
 - ・歌詞の好きな部分に下線を引かせる。
- フラッシュカードを用いて新出単語の確認
 - ・ALT の後に続いて発音練習。
 - ・意味の確認
 - ・日本語を見せて生徒に言わせる→書かせる。
- ワークの確認
 - ・一文ごとに生徒を指名し、音読させる。他の生徒はそれを聞き正しい英文と発音だった場合はリピートする。そうでない場合は黙っている。
- 教科書の内容理解及び音読
 - ・ALT のリピート
 - ・内容についての英問英答 (単語のみの答えは文に直す)

- ・単語のチェック及び黙読
- ・再び内容についての英問英答
- ・ALT のリピート
- ・一文を取り上げて、同じ意味を表す別の表現をノートに書かせる。

○ 英作文

- ・日本文化を英語で説明する。今日のテーマは「寿司」
- ・キーワードを生徒に言わせて板書する。
- ・出されたキーワードを元にして、英文を作っていく。

(3) 2年生の授業（教科書の内容確認・音読と文型の練習）

○ ウォームアップ

- ・教科書の本文読みをした後、ディクテーション
- ・トピックについて連想する単語をできるだけたくさん書く。今日のトピックは
"something you see in the sky"

○ 英語の歌 "Country Road"

○ 単語の復習

○ ワークの確認

○ 教科書の音読

- ・該当ページを何回読んだかの確認
- ・ALT のリピート
- ・閉本して、教師のジェスチャーを見ながら本文の暗唱
- ・開本して本文の確認

○ コミュニケーション活動

- ・Which is more ~~~~~ A or B? を用いてできるだけ多くの人と会話する。
- ・ポイントを設定し得点を競う。該当ページに書かれていること以外の表現を使ったらボーナスポイント。

(4) 授業者との協議

- ・本日の授業は特別なものでなく、いつも通りの授業である。
- ・授業の流れを一定にして生徒が流れを理解できるようにする。それによって生徒が進んで取り組めるようになるし、授業にテンポが出て、活動量が多くなる。
- ・基本的に「新出文型の導入」と「本文の内容理解・音読」は分けて授業をする。そうすることで音読の時間を確保し、英語の定着を図っている。進度の問題は現実には起こっていない。
- ・生徒には教科書は各ページ25回以上の音読を最低限のノルマとして課している。50回以上は読ませたい。
- ・新出文型を提示する度に既習の文法事項を振り返る。常に1年生で習う現在形から振り返るつもりで。
- ・ワークの確認音読は教科書の本文と少しだけ違う英文に触れさせるチャンスである。

4 感想

北原先生の授業については、講演会やDVD、北原先生自身の著作等によって断片的に触れていたが、今回1年生から3年生までの授業を通して拝見することができ、大変有意義であった。まず感じるのはテンポの良さである。50分の間にできるだけたくさん英語に触れる場面を作りだし、学習の効果を上げていた。もうひとつは、今までの学習を振り返りながら次の学習に取り組む点である。北原先生の授業では、新出文法事項や新出単語については、既習事項を踏まえた上で提示していた。北原先生の「忘れた語彙は新出語、定着していない文法事項は新出文型と考える。」という言葉が非常に印象的である。また、インプットだけでなく、生徒にはアウトプットの経験もさせる必要があるが、その切り替えがとても効率的に行われていて大変参考になった。